

2015年度外国人留学生入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)		面接		
	狙い・意図		狙い・意図		
日本画	与えられたモチーフに対する発想、表現力(構成・描写・色彩感覚)を求めた。		<作品提出:30号大2点以内、ポートフォリオなど> 実技作品を踏まえ、制作意図を語らせるとともに、提出作品、小論文、多摩美術大学への志望理由を参考に、総合的に判断した。		●
油 画	大きなガラス製の花瓶を両手で抱えるモデルをモチーフとして出題した。腕と胸の間に大きな空間ができ、ガラス器は透明なうえ人体との質感の対比があるので、これらを意識して描いてほしい。 その上で、各自どのようにモチーフを解釈しイメージを広げて表現できたか。また形態や空間は正確か。色感や質感は豊かかなど、表現の基礎を総合的に見るのがねらいである。		制作意図があり、表現することに真摯に向き合っているか。留学することの必然性があり、なおかつ多摩美術大学の油画科を選んだ理由が明確かどうか。日本語によるコミュニケーション能力などを総合的に見た。		●
版 画	版画制作に要求される基本的なデッサン力・構成力・造形力を見るために、本年度は「テニスボールを持って」という出題で黄色のテニスボールを渡し、自由に制作させた。		現在に至るまでの絵画経験 版画制作に向かう意欲		●
彫 刻	—		—		—
工 芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。		なぜ本学の工芸学科を選んだのか。そして何を学びたいのか、将来の展望などについて熱意と説得力のある答えを望む。実技試験を経た感想を話してもらうことで、本人の制作についての考え方や取り組み方を再確認したい。面接の受け答えと小論文において、本学での学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。		●
グラフィックデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力 問題の把握、理解が正しいか 伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか 発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか 描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか 個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか 		<ul style="list-style-type: none"> 日本語で日常会話が行えるか 専門分野の基礎的な用語が理解できるか 入学志望理由が明確であるか 授業への取り組みの意欲があるか 		×
プロダクトデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力=問題の把握、理解が適切か 発想力=アイデアが優れているか 独創性=他にないアイデアか 実現力=アイデア具体化方法の知識があるか 表現力=アイデアが伝わる表現か 		<ul style="list-style-type: none"> 授業に必要な対話力があるか 本専攻の内容を理解しているか 本専攻への入学意図は明確か 自分の意見を述べられるか 学習意欲が感じられるか 		×
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力と描写力、及び色彩表現力を問うことをねらいとして、ガラスコップに入れた白妙菊の苗をモチーフにして出題した。設問を正しく理解しているかどうか、正確な観察と独創的且つ調和的な構成が美しくいねいにできているかを採点のポイントとした。		ひとつは、授業についていくことが出来る十分な日本語力と造形力を有しているかどうかを問うために、もうひとつは、テキスタイルデザインを学ぶための意志や志願の動機を明確に説明できるかどうかを問うことをねらいとして面接試験を実施した。		×
環境デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。		本学科の授業を理解できるだけの日本語会話能力があるか。日本で、また多摩美術大学で学びたい理由がはっきりしているか、本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。		●
情報デザイン メディア芸術コース	対義語は、物事の印象や感覚と深く結びつき、様々な状況を比較して知る上でも使用される。今回の出題では、対義語を決めて、想起するイメージの制作を課している。この出題の狙いは、受験生それぞれがどのような興味深い対義語を選び、さらどのように視覚的表現を結べるかである。構図や色彩あるいは仕事の丁寧さ細かさなど基本的な点を評価することは言うまでもないが、それに加え、課題を理解し、そこにどれだけ個性的な解釈を加え、表現しているかも採点のポイントになる。		面接試験のねらいは以下の能力をみることにある。採点のポイントはこれらを総合して判断する。 ・面接時の態度、言葉遣いをふくめたコミュニケーション力。 ・提出作品の内容。 ・提出作品の内容を限られた時間内にうまく伝えられるプレゼンテーション力。		●
情報デザイン 情報デザインコース	1. 限られた形式のなかで、問いに対して的確に視覚表現できているか。 2. 表現技術が求める水準に達しているか。 を確認することが出題のねらいである。		1. 日本語の習得度 2. 作品プレゼンテーションは的確か 3. 入学後のヴィジョンはあるか		●
芸 術	日本語の習熟度だけでなく、思考力をみます。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。		外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激となります。面接試験では、直接本人と会って、日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判定します。		×
統合デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 理解力=問題の把握・理解が正しいか 観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか 発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか 描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか 視 点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 入学志望理由が明確であるか 本学科の内容を理解しているか 授業に必要な対話力はあるか 授業への取り組みの意欲があるか 		×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	—		—		—
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	鉛筆デッサンは、4種類の質感の異なったモチーフを与えます。それらを想定で組み上げることによって空間構成力を・モチーフの異なった質感を描き分ける観察力と表現力を・光をとらえて陰影を劇的に描写できる感性があるかを探ります。 モチーフに、LEDスタンドライトを出題しましたが、デッサン上は点灯させたり、画面の大胆な構図があっても良かったと思います。		日本語会話能力 学科の特色を理解しているか 協調性があるか 授業への熱意と適応力があるか 作品の説明が的確であるか		×

全学科共通小論文

- 1) 題:「10年後の自分」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。
- 2) 日本での留学が、10年後の自分をどのように成長させるものであるのか。その期待と夢を述べてもらいたい。
- 3) 正しい日本語によって書かれているか。意味内容が明確であり、かつ強い意欲が感じられるか